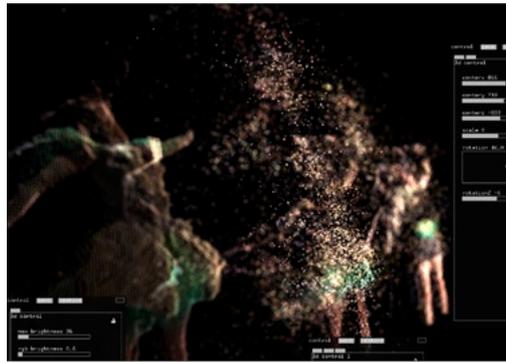
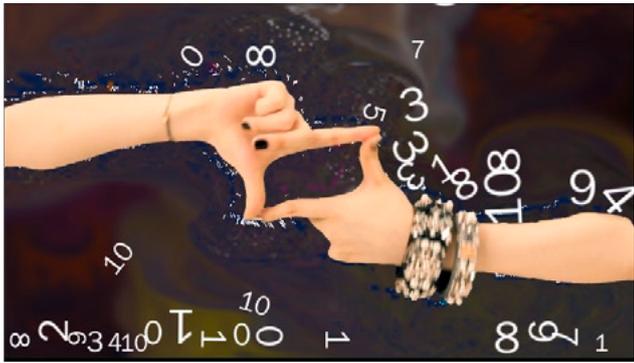


真鍋大度

文・森岡麻紗子



Perfume東京ドーム公演で使用された自作映像アプリ。3Dカメラや画像解析を使用して彼女達のダンスを最大限に活かした映像をジェネレートした。
direction: 関和亮/
programming: Zachary Lieberman and Daito Manabe



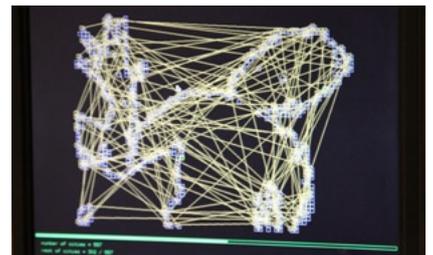
やくしまるえつこ「COSMOS vs ALIEN」ミュージックビデオ。秒間600フレームのハイスピードカメラで一発撮りを行い、編集作業はしていない。実際の撮影時間は8秒ほど。ビデオ内で発生するイベントはコンピュータで制御されている。
Dif: Takashi Yamaguchi (d.v.d.)
Concept and programming: Daito Manabe
Hardware engineering: Katsuhiko Harada

白金台に「4nchor5 la6(アンカズラボ)」というクリエイターやナードが集う実験場がある。運営するのは(株)ライゾマティクスというデザイン会社。そして今回紹介するのは、ラボを活動拠点とする真鍋大度さんだ。彼はアーティストであり、プログラマー、デザイナーと、いくつもの顔を持つ。これまでに彼が関わった仕事は、やくしまるえつこのミュージックビデオやHIFANAとコラボレーションしたNikeの商業ワークなどのほか、アルスエレクトロニカセンターのオープニングパフォーマンス、山口情報芸術センターで3月に開催される個展など多岐に渡る。

彼の活動の源はラボにある。新しいテクノロジーを用いたクリエイターたちとの実験が日夜繰り返され、この実験から新たな表現技法を獲得していく。しかし、彼が生み出すのは表層的な部分ばかりではない。鑑賞者の動きに対応するインタラクションのあるしかけによって空間・感覚・体験すらも操作するのだ。これまでも工業用マシンやモデルガン、ハイスピードカメラなどをハッキングして操ることで、誰も見たことのない作品を生み出してきた。ときには身体にセンサーと取り付けることで、人の身体ですらハックしている。そうした彼の作品はテクノロジーと人、作品と鑑賞者、さまざまな関係性を曖昧にしていく。今後、どんな素材をハックし、私たちが未知なる体験へ導いてくれるのか、彼の活動に期待は高まる。



HIFANAとコラボレーションした「NIKE MUSIC SHOE」。柔軟なランニングシューズ」という商品の魅力を伝えるために、シューズに圧力を検知するセンサーを仕込み、曲げることで音が鳴る楽器としてシューズを改造した。 W+K+Hifana+Rhizomatiks



せんだいメディアテークで展示された新作。カメラで撮影した画像のシルエットを自動認識し、その座標に合わせてモデルガンが弾を発射。シルエットを切り抜く。
Daito Manabe+Motoi Ishibashi



アンカズラボでの制作風景。

MANABE Daito

株式会社ライゾマティクス取締役。ハッカーズスペース 4nchor5 La6 主宰。身近な現象や素材を異なる目線で捉え直し組み合わせることで作品を作っている。高解像度、高臨場感といったリッチな表現を目指すのではなく、注意深く観察することによって発見出来る刹那的な現象、身体、プログラミング、コンピュータ、そのものが持つ本質的な面白さに着目し、作品制作のきっかけとしている。 <http://www.daito.ws/>

